

## オーディオ実験室収載

### サブシステムの再構成(12) (HP 収載)

#### 1. はじめに

前報(11)に引き続き、サブシステムの入れ替え後の試聴を行います。

#### 2. サブシステムの再構成の内容

前報(11)の後、ミニシステムや JBL4350A のスーパーツイーターの設置替えを行った結果、全体の配置は写真のとおりです。

今回は、TELEFUNKEN L-61 の試聴を行います。



TELEFUNKEN L-61

#### 3. サブシステムの再構成の試聴結果

駆動アンプは PX25 を使用し、ベルデンのケーブルで、バナナプラグ経由ムジカライザーに配線し、ムジカライザーからバナナプラグ経由で TELEFUNKEN L-61 に配線します。ムジカライザーのマイナス側の入力のバナナプラグには、10000 $\mu$ F の電解コンデンサーを接続するとともにバナナプラグに電磁波吸収テープ NRF-005T を巻きます。

試聴音源は下記のとおりです。

アナログ盤

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

**J.S.Bach Sonatas & Partitas**

**Nathan Milstein (Vn)**

**Philips**

**J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集**

アルトゥール・グリュミヨー(ヴァイオリン)

クリスティーヌ・ジャコッティ(チェンバロ)

**STAGE+**

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パテイアシュブビリ(ヴァイオリン)他

ミルシュテインのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、倍音の伸びは前報(1)の AXIOM80 に及ばないものの、滑らかでしっとり聴かせる音です。

バッハのヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、前報(1)の AXIOM80 に比べれば、おだやかでしっとり聴かせる音です。

ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、比較的バランスよく、倍音もさほど不足なく聴けますし、ボウイングの様子もリアルです。

バッハの Goldberg 変奏曲は、スケール感はありませんが、バランスよく、まとまった音で聴けます。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」では、スケール感やコントラバスの音階までは無理があり、バランスが高域に偏りがちですが、こぢんまりとまとまった音になっています。

**4. まとめ**

サブシステムの入替え後の TELEFUNKEN L-61 の試聴を行いました。当面ムジカライザー ML-6 を経由した条件で試聴していきますが、スピーカーアキュライザーの追加導入も視野に入れていきます。

以上